

Written by **Hiroaki Zushi** (The Univ. of Tokyo)

			Reception	Conference		Banquet	
DATE	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28
STAY	Xi an	Dun Huang	Dun Huang	Dun Huang	Dun Huang	Dun Huang	Xi an

1. DIARY

8/22 西安

空港から西安の中心街まで自動車です約1時間半。途中、歴史博物館に寄る。その後、阿部仲麻呂さんの記念碑がある公園を見学。夕食は西安で一番有名な餃子の店です。エントランスにいたチャイナドレスの女性らが、妙に色っぽくて良かった。餃子は全18種類です。どれも皆、個性的な外見と味をもっていた。ラストに出た、真珠餃子は、煮えたぎるスープの中に小指の先端ほどはあろうかという小さな粒餃子数十個をポロポロと投入するタイプのもので、殆どスープであった。

その日の晩、私たちはオプションツアー「足つぼマッサージ(1時間1500円・肩もみ付)に参加。気持ちいい(中国語・シュフ)と痛い(中国語・トウ)を一度に体験した。中国は、貧富の差が激しいとは聞かされていたものの、これほどまでとは想像がつかなかった。子供から老人まで、お金をねだる者たちがいて、それに与える者たちがいる。多くが中流家庭の日本では、まず考えられないことだ。観光客によくねだる傾向にある。ホテルは、ガイドブックにも載るほどの4ホテル。日本にしてみれば、ふつうのホテル。

8/23 西安 敦煌(移動日)

朝7時半からオプションツアーに参加。ひとり5500円。お金が足りなくて、高橋先生に1500円借りる。オプションのお金や、ここのホテル料金を念頭に入れていなかったのもので、今回の旅はツライ。

まずは楊貴妃が使っていたというお風呂(温泉らしい)を見学。そして、楊貴妃の旦那、つまりは始皇帝のお墓をバスの車窓からながめた。始皇帝には3000人の妃がいた。楊貴妃はそのうちのひとりであるが、実は、楊貴妃は始皇帝の息子の婚約者だったそうだ。息子の嫁さんを横取りした形だ。

バスは、近年出土した兵馬俑坑(ヘイバヨウコウ)についた。これはもっともポピュラーな観光地で、有名な遺跡らしい。人型の石造が所せましと並んでおり不気味ではあったが、型を使ったマスプロダクションではないことは事実であるから、これほどの石造を作ってしまう漢民族のエネルギー行動に圧倒されるばかり。有名な石造にはそれぞれに名前がついているようだ。

今日のお昼は、兵馬俑坑の中にある中華レストランです。さっぱり系でおいしかった。目の前でバンバン麺を打ち始め、おいしいラーメンを作ってくれた。

いざ、敦煌へ。しかし、飛行機はジェット機ではあるが、ジャンボではない。おまけに古い。さらにおまけに、スッチャーがニコリとも笑わない。無愛想。無然とした態度が最悪だったが、はげしい揺れに耐えつつ(生きた心地がしなかった)飛行機は無事に敦煌飛行場へ着陸。飛行機を降りて、辺りを見渡すと、砂漠砂漠…。砂漠の真ん中の飛行場だった。しかも、暑い。日中は、35-40になる。大変なところへ来てしまった。

飛行場のエントランスに、迷彩服を着た軍隊のようなひとがいて驚いた。正直、怖かった。田舎・そして砂漠。本当に何も無い。砂漠のオアシス村、敦煌。新宿ほどの本当に小さな田舎町。

夕食は外食した。ホテル内ではとらずに、リスクを背負いつつも外へ。家庭料理・郷土料理という看板を見か

けたので、そこへ入ることを決める。店名は忘れた。薄暗い店内。でもお店のひとの対応は very good ! 英語も日本語も通じないが、私たちが伝えようとしていることを、一生懸命に知ろうとしている様子に心を打たれた。田舎町ではあるが、人々の心はあたたかい。平和だ。観光地・西安とはまるで違う。(西安は治安が悪い)これは、都会のひとの心が冷たいとされる日本と同じことかも知れない。ここに、これから5泊する。

(追記) ホテルのビジネスセンターからメールを出した。作成から送信まで8分4元也。(2分1元)

8/24 敦煌

Reception パーティがあった。同じテーブルに座った中国人のひとたちと仲良くなった。今朝～昼にかけて、僕は砂漠の中にある、漢代長城三大遺跡「玉門関(ギョクモンカン)」「漢長城とのろし台」「河倉城(カソウジョウ)」を見学に出かけた。砂漠の中に一本だけ通っている道路を、2時間かけてひたすら進んだ。東京でお留守番しているNISSAN R33 SKYLINE GTSで走ったら気持ちいいだろうなと思った。砂漠行く前にアクシデント! 町から出るために小さな河を渡るのだが、そこにかかっている橋が壊れており、ただ今工事中で、バスは河水に車体を浸水させながら、橋のかかっている場所を向こう岸まで向う。タクシーや乗用車もトラックもみんな渡っている。ディズニーランドのアドベンチャーさながらの迫力だ。でもどうしてドライバーはこんな状況にも対応できるのだろうか。中国の交通ルールは滅茶苦茶だし、交通量も多い中で接触事故を起こさないで運転するのもすごいが、このような状況になっても対応してしまうのは中国人の才能なのか。みんなどんどん渡ってゆく。

玉門関にNEDOのプレートが飾られていた。ソーラー発電に対するものらしい。玉門関でメロンとスイカをたくさん食べた。スイカは甘くないが、メロンは大変みずみずしく、甘くておいしい。中国は野菜や果物がおいしい。

昼にはホテルに戻ってきた。昼食は各自で自由ということだったので、山本先生(東京理科大)・高橋先生・加藤さんと僕の4人メンバーで、「～飯店」(正式名称は忘れた)というお店に入った。ここは、昨日行った家庭料理系のお店に良く似ている。しかし、ここには日本語のメニューがあり、助かった。しかし、お店のひととのコミュニケーションはうまくゆかず、要らないと断ったはずの料理が出てきてしまう。相手が分かっているか、分かっているのか、判断するのがとても難しい。

明日から会議がはじまる。僕は26日の午前11時20分～40分の枠で発表する。

8/25 敦煌(会議中)

朝8時半から学会。生まれてはじめての国際会議にドキドキしながら、キーノートレクチャーを受けた。東工大時代にお世話になり、西安からずっと一緒だった青木繁先生が発表していた。青木先生は現在東工大を退官されて、東洋大(埼玉県川越市)にいる。昼食は、カンファレンスランチなので、ホテルのレストランでタダ食い。夕方からカンファレンスツアー To 鳴沙山(ミーシャ砂漠)があったが、その前にちょっと腹ごしらえに、2元(=30円)ラーメンを食べにいった。これが、なんとおいしいことか! 店内は、民家を拡張したような様で、汚い。敦煌は特に、どこへ行っても日本のような清潔さは見受けられない。スープに鶏のガラを使用しており、日本人にはおなじみの味だ。中国なので少しか辛かったが。

晩からは鳴沙山へ。(沙=砂・日本では石が少ないと書くが、中国では水が少ないと書く)ラクダを利用せずに、徒歩で砂漠の山の稜線を登るが身体がついてゆかず、途中で息切れして休憩する。加藤さんはとても元気で、どんどん登ってゆく。これではダメだと、加藤さんに必死についていった。一番高いところまで行き、サンセットを眺め(これはきれいだった)、暗くならないうちに移動するため、ショートカットの手段として、50°オーバーはあろうかという山の斜面を下まで駆け下りた。足が痛くとても疲れた。この疲れが明日のプレゼンに響かなければいいね、と加藤さんと話しながら、おいしいコカコーラを飲んだ。

8/26 敦煌（会議中）

今朝も早くから会議。会議の二日目。キーノートレクチャーが長引いたようだ。今日はキーノートレクチャーには参加せずに、部屋でひとりこもりっきりで発表練習。発表のことが気になって、昨晩は結局あまり眠れなかった。11:00スタートのコンポジットセッションで、11:20 - 11:40の枠で発表した。原稿丸暗記で発表は何とかこなしたが、やはり Answer and Question が難しい。相手が何を伝えようとしているのか、読み取れない。大きな質問が2つ来て、ひとつは「CFRP リサイクルの仕方」。もうひとつは、モーターレーションの予測仮定で、「乗用車の増加を予測するにあたりベースとしたこと」。1つめの質問は、高橋先生の方へ目をやると首を大きく横に振っていたので、おそらく的を獲ていなかった回答をしていたのだろう。2つ目の質問は高橋先生に助けてもらった。結局、指導教官の手をわずらわせることになってしまい、ドクターの学生としてとても恥ずかしい。反省すると共に、今後の発表への原動力にしたい。

本日予定されていたカンファレンスツアーは中止になったので、山本先生・高橋先生・加藤さんと僕、そして今日は理科大の中曽根先生を加えて四川料理を食べに行った。やはり、日本語も英語もつながらないが、麻婆豆腐や水餃子はめちゃめちゃおいしかった。個人経営（民家を改築したようなお店）の飲食屋のほうがホテルよりもおいしい。

8/27 敦煌

朝からカンファレンスツアーに参加した。莫高窟（バツコウクツ）に行き、崖に掘られた穴ぐらの中の大仏やら絵やらを見学した。中国の歴史は偉大であると、改めて感じた。

午後からオプションツアーに参加した。ヤンゴン砂漠？に行った。行きのバスは日本人用が満員で、中国人用バスに乗らされたので、中国語でのガイドアナウンスは全く理解不能で、眠ってしまった。でも、ガイドさんはそんな僕に気を利かせてくれたのか、いきなり生オケで「からず」の歌を唄ってくれた。結構上手だった。（日本語話せるんじゃない）

高橋先生のおごりで、砂漠の中を馬に乗って走った。200円でいいと言ったにも関わらず、遠くに連れていかれたら、ひとり60元とか言われた。もう何を信じていいのかわからない。人間不信になる。結局、遠回りして帰り1200元を渡した。馬とかラクダは砂漠では必需品だ。ただし、馬は背がよく揺れたり跳ねたりするので、乗り心地は悪い。

晩はバンケット。いつもより豪華な食事が出た。スッポンが丸ごと入った料理には圧倒された。明日は10:50のフライトで西安入り。敦煌は田舎町だったが、それゆえ、人々の心も温かく、物価も都会に比べたら安い。治安もいいほうだ。いい町だった。

8/28 西安

今日で、ウルムチ組とはお別れ。もう一週間バカンスを楽しむ人は、ウルムチへ向う。敦煌空港でバイバイした。彼らはプロペラ機で飛び立ったが、大丈夫だっただろうか。うちの飛行機はジェット機で、比較的新しいものだったので安心して西安入りできた。

ここで最後のステイをし、明日15:05のフライトで成田へ帰る。今はお茶漬やお味噌汁、白ごはんが食べたい。

今日のオプションツアーは高橋先生が幹事となって申し込んだ。西安の石垣の門（シルクロードの始点）に登ったり、イスラム教のモスクに行ったりした。

晩には、中国式マッサージ（全身）を受けた。足つぼまで入って、2時間300元（=4500円）。気持ちいいところはきもちいいが、肩口の指圧で全体重をかけられたのは、めちゃめちゃ痛かった。でも日本語が通じないので、痛いという表情で伝えようとするが、笑うだけ。石焼きいも用（かどうかは分からないが）の焼いた石を、布袋に入れて、お腹や背中にあてがう療法を受けたのだが、低温やけどするんじゃないかってくらい、ジーンと熱く、死にそうだった。肉を食いすぎて、胃腸がもたれげみ。

